

私信

倉橋惣三

追悼の哀惜にたえぬ人々も少なくない。訪ふて再起を促すよすがのない人も多い、園舎を焼かれて待機之久しきをかこつ人々は更に多からう。幸にして無異なるを得たわたくしは、それらの同志の上を心に痛く懐きながら、世の慌しさに、おたよりの機会もなく打過ぎてゐるのをお免しを乞ふ。

その中にも次々と再興や活動開始の快報に接することは、なんとといふ喜ばしいことだらう。喜ばしいといふ以上に有り難い。物は乏しい。事は難い。しかし、大切な將來だ。貴重な今日だ。そうした快報の一つ／＼に、新しい日本の將來が約束される。また、われ／＼の今日が勵まされる。

東京女高師も罹災したといふ當時の新聞記事が、日頃の親しい方々に心配をかけたが、木造の部の他、本校も附属校園も無事であつた。幼稚園舎も全く以前通り變りはない。たゞ爆撃下の休園中、掃除や整理に營養失調のおはづかしさがあつただけである。しかも近

所一帯の荒茫の焦土。そこに一切の幼兒的環境を失つてしよんぼりしてゐる子達を捨て、は置けなかつた。從天下の保婦諸君の近所巡訪から、ぼつり／＼、靴や帽子のない子らが寄つて来て、爽やかな秋晴が雜草の遊園に漲る頃には、組分けをしてゆく程の幼兒の集ひが元氣な嬉々たる足音と笑ひ聲とで、いつもの幼稚園らしい幸福と、教育の借調を練りひろげ充實させて来た。爾來もうちき一年、日に新たに日に楽しく、月日のたつのは、子どもが天國世界では殊に早い。たゞ職員との交通機關が、日ましに混亂と難澁を加へて来るのは、天國に入るの門は狭いかなと、勿體ない冗談口をきゝたくなる。但し、そんなことは、まあどうでもいゝ。

七月、大阪府私立幼稚園聯盟の保育講習會のために大阪へ行つた。戦前、わたくしたちの夏の行事のやうに長くつゞいた此の講習會が、三年振りで再開される喜びは、招きに接すると共に、一談に及ばずわたくしを驅り立てたのであつた。この大阪講習と九月に開設の豫定になつてゐる日本幼稚園協會の講習とは、わたくしにとつて、東西保育界に接し得る毎夏の恒例の取り戻しである。それにしても、大阪市の焦土化は、保育論議よりも、お

慰問のこゝろで一ばいであつた。殊に、あの盛だつた大阪の幼稚園が、一日も明るく舊況に復することを念じて己まない。

東京は道路を除いて一面の蔬菜畑。初ふ蔭の蔓、竹柱に攀ち登る南瓜の蔓、朝露につや／＼しい茄子、夕風に鳴る唐もろこし、京に田舎ありどころか、田圃に都ありの風景、自然の色の美しさは、敗戦國だつて變りはない。心の繪皿は、常ならぬ混色に灰がゝりもするが、折角の自然のまゝを、一莖一輪のに見落さないやうに心がけてゐる。殊に生長伸展の旺んな自然の力は、焦土にあつて、一段の雄壯なる詩趣たらざるを得ない。

夏の残りを利用して、私信中の私信を添へる。あの時その後、隨方からおたづねをいたゞきながら、御返事も意り勝ちに失禮した向きが多いと思ひますが、わたくしは戦災にもかゝらず、お蔭で無事従前のところに住つてゐます、こないだ幼稚園の體重計へ乗つてみたら、秤の針が、以前とは小々異つたところを指しましたが、健康に變りはなくはたらいてゐます。本誌上で、もと通りお目にかゝれるのは誠に幸いです。この幸を空しくしては濟まぬと思つてゐます。